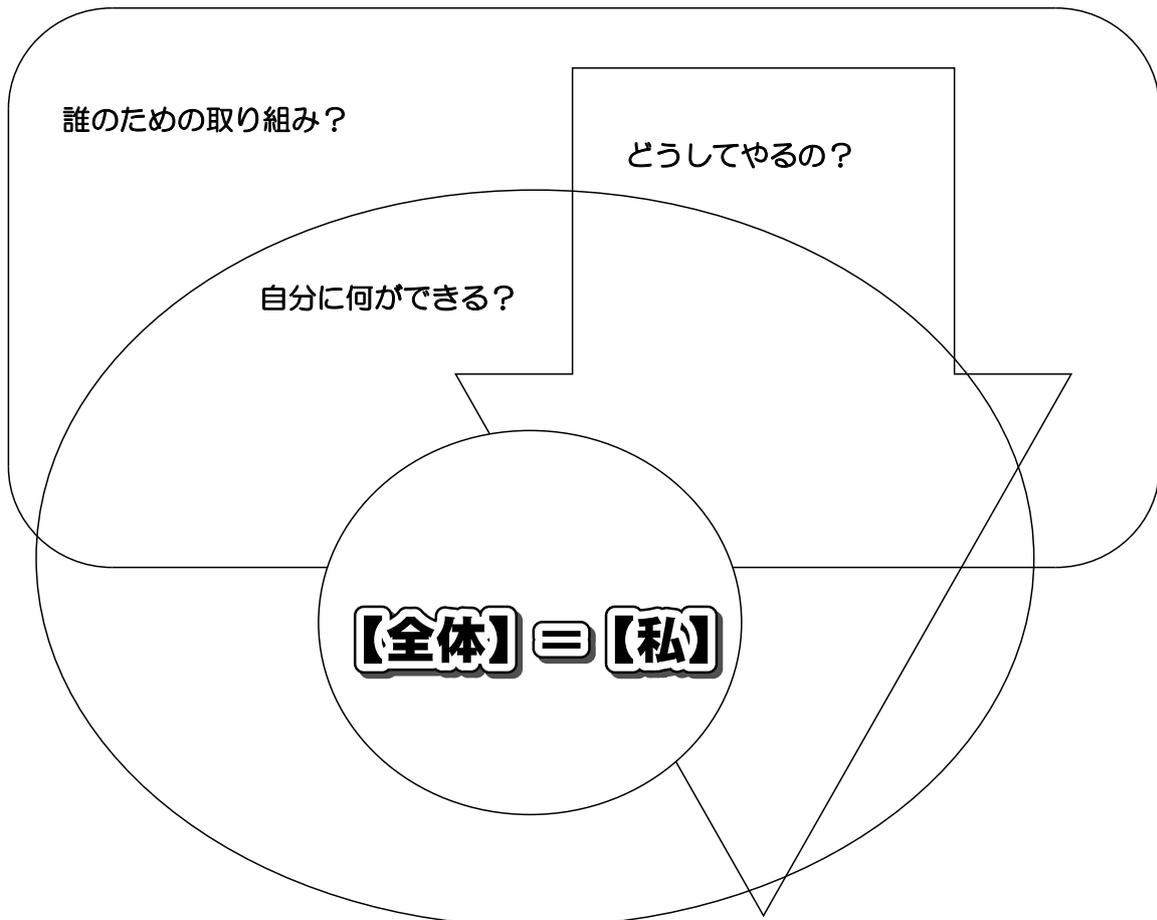


2023年度

「報告書の書き方」 「特定課題研究の進め方」



学 校	
氏 名	

沖縄県立総合教育センター

目 次

I 教育実践と教育研究	1	ページ
1 教育研究の必要性		
2 教育研究を推進するもの		
3 学校における実践的研究		
II 実践的研究の進め方	2	
III 教育研究の視点と研究主題	3	
1 教育研究の視点		
2 教育研究の課題		
IV 教育論文の本質	4	
1 教育論文を書く意味		
2 教育論文の特徴		
V 論文の形式と構想	5	
1 論文の形式		
2 論文の構想		
3 論文の文体と表記		
VI 主題の設定	7	
1 主題（テーマ）の選定		
2 主題に含まれる要素		
VII 仮説の立て方	10	
1 仮説の機能		
2 仮説の設定		
VIII 実態調査とその処理	13	
1 実態調査のねらい		
2 実態調査の方法（例）		
IX 研究内容について	15	
1 理論研究について		
2 実践研究について		
X 文 献	16	
1 文献の重要性		
2 引用の仕方		
X I 検証の方法	18	
1 検証の意味とねらい		
2 検証計画を立てるために		
3 授業設計の過程と工夫		
4 考 察		
5 成果と課題		
X II その他	21	
1 推敲の視点		
2 句読点・その他の記号（符号）の使い方		
※ 「文部科学省用字用語例」（抄）		出典『公文書の書式と文例』

I 教育実践と教育研究

1 教育研究の必要性

学校における教育研究は、日常の教育実践の中で、子供の自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを身に付けさせたい、伸ばしたいという教師の課題をまず設定することから始まる。そしてその課題にこたえる実践は何かという研究を行う。研究の結果は、まとまった知識や理論として蓄積される。研究によって導き出された知識や理論は、一人一人の教師の主体的な吟味・選択によって教育実践に方向性を与える。

また、学校における教育研究は、それが、単に個々の教師と当該学校の変革を図るだけでなく、生徒と教師の諸条件に適した様々な創意工夫を他の多くの学校や教育関係者に提言することにより教育全体に寄与するものとなる。以上のことから教育研究を充実させる必要性がある。

2 教育研究を推進するもの

教育研究を推進するためにはまず、生徒に対しての深い愛情が必要である。幼児児童生徒の内面や個性的な特徴を洞察し、その中から気がつく課題を研究課題として「目指す子ども像」に向けて課題を追究していくのである。また、豊かな構想力と確かな技術が必要である。研究課題を解決するための方法を吟味し、研究の構想を創意工夫し、様々な研究技法を適切に利用し、研究を進めていくことが大切である。

3 学校における実践的研究

学校における教育研究の目的は、教育実践の質を豊かに高めていくことにある。そのため、学校における教育研究は、次のような特質を持つ

- 生徒の変容や成長に直接かかわる研究である。
- 生徒と理論に結びついた実践のある研究である。
- 教育実践の質を高め、その方向付けを行う研究である。
- 研究の深まりとともに新しいことに気付き、修正を加えることができる研究である。

このように考えるとき、学校における教育研究は、どのような研究方法を取るにせよ、教育実践上の課題から出発し、仮説を立て、実践によって検証するものである。つまり、常に実践を通して進め、その結果が直接、生徒にはね返る実践的な研究であるべきだといえる。



Ⅱ 実践的研究の進め方

実践的研究の全体構想

教育研究の方法には様々なものがあるが、教育実践の中で行う教育研究である実践的研究の一般的な過程は以下のようなになる（図1）。

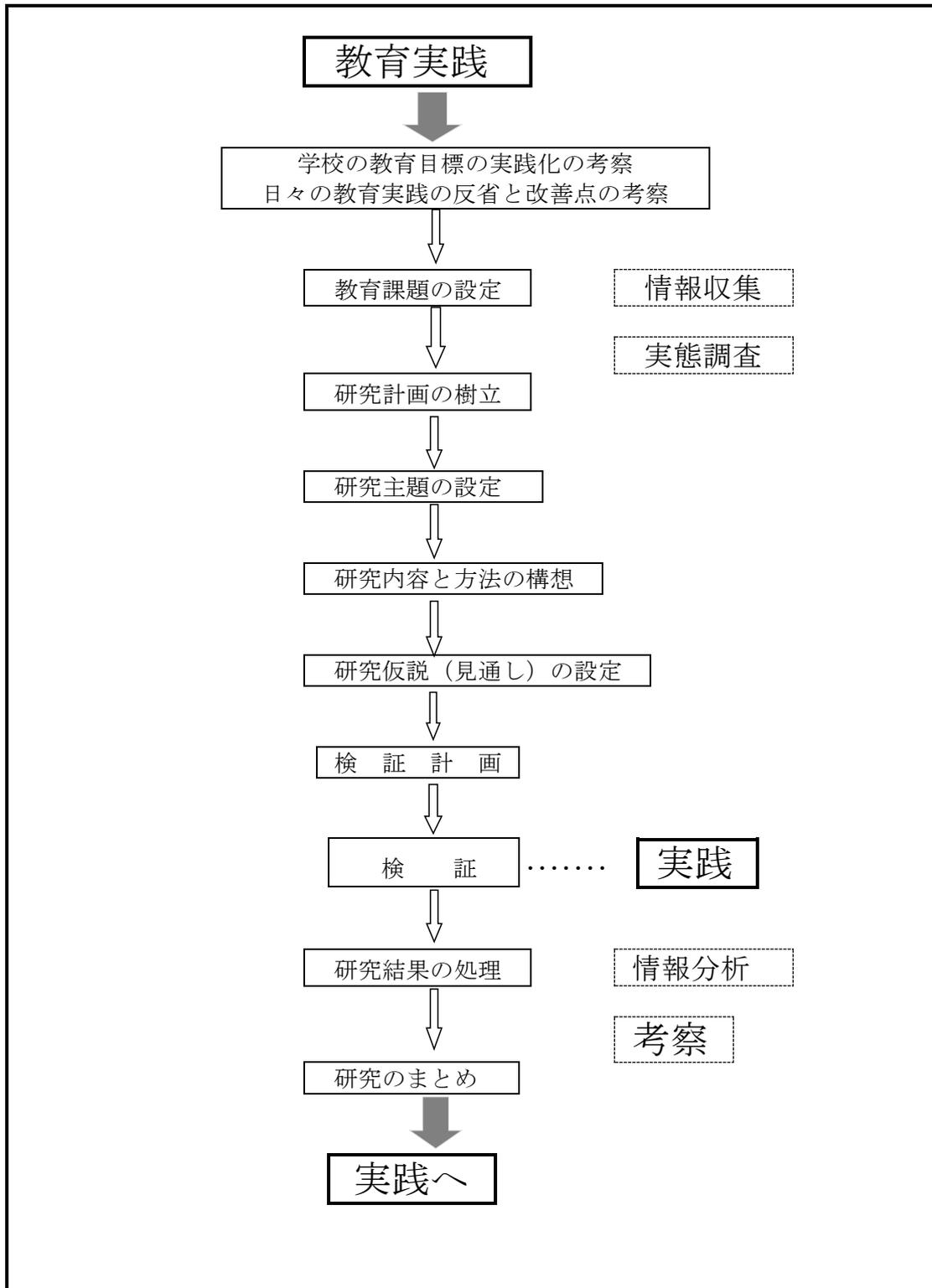


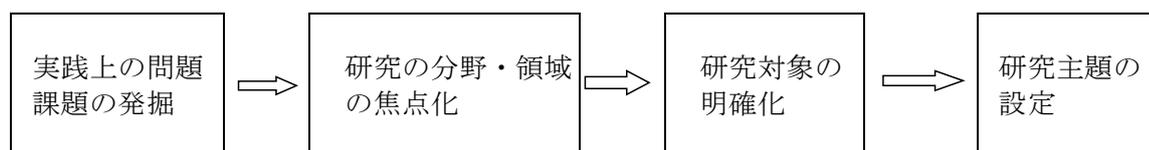
図1 実践的研究の一般的過程

Ⅲ 教育研究の視点と研究主題

1 教育研究の視点

教育研究の着手に当たっては、ねらいを明確にして、どんな角度から切り込んで解明に迫ったらよいかという視点を確立することから始める。

この視点の確立により研究の方向が定められ、内容が焦点化され、必然的に研究主題に集約される。「教育研究の視点」を確立するためには（図2）に示す各段階を着実に押さえる必要がある。



（図2 教育研究の視点確立の過程）

教育研究は視点を明確にして行うことが大切である。そのためには、これから追究しようとする課題が、教育活動のどんな分野・領域等に位置しているかを見通して研究することである。そのことによって、課題が含んでいる問題や原因及び本質に迫ることができるからである。

2 教育研究の課題

これからの社会は、国際化、情報化がますます進展し、各方面にわたり急激な変化が予想される。こうした動きの激しい社会にあって、教育においても解決しなければならない課題が山積している。次にあげるのは今日的課題の主なものである。

○ 教科指導

- ・自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの育成を図る指導方法の改善
- ・言語活動の充実
- ・個を生かす指導の工夫・改善
- ・習熟度に応じた指導方法の工夫

○ 特別活動

- ・自主的・実践的活動を促す、年間指導計画の改善
- ・一人一人の個性を伸ばす指導と評価の工夫

○ 進路指導

- ・自らの生き方を考え主体的な進路選択ができる全体計画の工夫改善
- ・将来の職業に関心と理解を深める体験学習の充実

○ 健康・安全に関する指導

- ・心身ともに健康で安全な生活習慣の育成を図る指導の工夫
- ・エイズに関する計画的・継続的指導の充実

○ 国際理解教育

- ・国際社会の中でたくましく生きる資質の育成
- ・自国文化と異国文化の理解を図る国際理解教育の充実

○ 情報教育

- ・情報活用能力が育成できるような年間指導計画の改善
- ・「総合的な学習（探究）の時間」における情報活用能力の育成

IV 教育論文の本質

1 教育論文を書く意味

論文とは、日本語大辞典によると、「意見または研究の結果を筋道を立ててまとめた文章」と記されている。『知の技法』（東京大学出版会）によると、「ある問題についての、自分の主張をなんらかの調査に基づいて、合理的な仕方でも根拠づけようとする一定の長さの文の集まり」とある。これらの定義からすると、論文は、ある考え方が正しいと科学的な方法でも根拠づける点で、エッセイや感想文と異なる。

ここでは、論文の定義を「研究論文」と限定し、ある問題についての研究成果を、文章にまとめたものとする。そのまとめは、資料、調査、実験、検証授業、研究のプロセスなどを含み、そこで得られた正確なデータをもとに、具体的・論理的なまとまりをもち、問題にたいするある主張を行ったものとする。

つまり、ここでいう論文とは、研究成果の記録を公表する科学的文書である。論文の目的は、現在の知識に何か新しい事実を加えることにより、科学の進歩や文化の振興に貢献することである。したがって、小さくても新発見か新しい意見を含むものでなければ発表する価値がない。また、研究は論文として発表するまで完成したことになる。

論文は、一度印刷されると永久に残る。それゆえに、偽りの記述、誤った解釈、軽率な結論等は避けたいものである。また、悪い文章、誤字、誤植に至るまで慎重に気を配る必要がある。

2 教育論文の特徴

教育論文といっても、幅広いものが予想される。思考レベルを中心とした論文、教育の理論や理念に関する論文もあれば、生理学、心理学等で行われる精密な実験に基づき、その結果をまとめた実践レベルのものまである。取り扱われる内容も教育行政、教育史、教育原理、学習指導の工夫、教材・教具の開発まで多種多様である。したがって教育論文の特徴を一義的にとらえることは困難であるが、学校現場で具体的実践を中心とした研究論文に限定すれば次のような特徴を有している。

- (1) 教育の現場に働きかけ、そこから派生する問題を改善していく営みから生まれること。
- (2) 思考レベルと実践レベルの調和のとれたもので、理論が具体的な実践に裏付けされたものであること。
- (3) 論文の根底に人格形成を担う教育観が必ず反映されていることである。
- (4) 教材・教具の開発であっても、そこに子供の姿がイメージとして現れること。
- (5) 教育の科学化を志向するものであること。一つの人格をもっている子供を対象とし、その行動の変容を、科学化し客観性を持たせていくことに特徴がある。

児童・生徒の姿が想定できないものは、現場の教育論文としての要件を欠く。

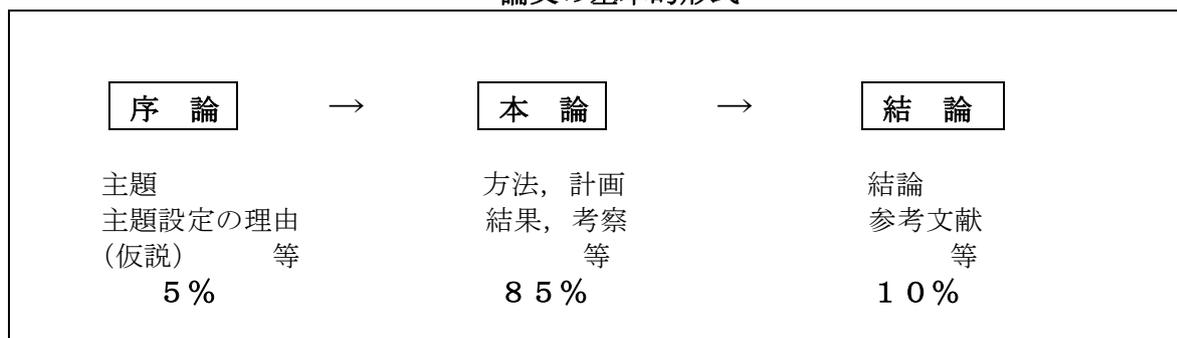


V 論文の形式と構想

1 論文の形式

論文は本来自分の主張を他の者に理解してもらうためのもので、読ませるために書くものである。したがって、興味深く、しかもわかりやすく読み手が読む意欲を持つように記述しなければならない。形式も、形式が先にあるのではなく、他の人に理解されやすいように、論理的に叙述する目的から生まれたものである。

論文の基本的形式



2 論文の構想

論文は、自分の行った研究を計画的・組織的に全体を体系づけてすすめ、自分の確立した独自の論を、的確に読者に伝えるものである。そのために、論文を書くにあたっての構想は、十分時間をかけて綿密に練らなければならない。

(1) 全体構想の第1段階 …… おおまかな構想

研修計画をもとにして、序論、本論、結論に相当するものを、それぞれ整理して構想を立てる。

序論では、研究テーマ設定の理由、仮説を簡潔に述べる。
本論では、研究テーマに沿った研究内容、指導の具体例、検証授業の展開等を述べる。
結論では、成果と今後の課題を述べる。

(2) 全体構想の第2段階 …… 資料・データの整理

大項目が決定したら、次に資料・データを整理する。

論文の構想を立てるということは、主題を中心にしてそれを裏づける資料、データの検討の結果を整然と体系化し、主張の明確な迫力ある論文としての形体を整える骨子を構築することである。

(3) 全体構想の第3段階 …… 構想を項目化する

資料やデータの整理と不足分の収集が終わったら、次に本格的な段階に入る。ここでは、第1段階で立てた大項目に対して、それを構成する小項目を作り、具体的に項立てしていく。どのように論をすすめるかを具体的に項立てすると、論文全体の輪郭がかなりはっきりしてくる。

次にその項立てを再検討して、それに対応する資料を整理し、完全な骨組みを作る。この段階で論文のおおよそのページ数を決める。

各論のページ数は、序論5%、本論85%、結論10%を目途にするのが適当である。

3 論文の文体と表記

(1) 分かりやすい文章を書く条件

論文は、内容をわかりやすく、明確に読み手に伝える必要がある。自分が何を言おうとしているか、どんな材料を使ってそのことを述べるか、どのくらいの長さの文章で表現するかなどの構想をしっかり立て、明快な論述を工夫する必要がある。

(2) 表現を明確にする

- ① 文体をそろえる。論文は通常、常体（だ、である体）で整える。
- ② 正しい文の形（文法の規則にはずれない形）で書くようにする。
基本形（なにが～どうした なにが～どんなだ なにが～なんだ
 なにが～ある、ない、いる、いない）
- ③ 主語と述語をただしく照応させる。
- ④ 主語と述語をあまり離さない。
- ⑤ 修飾関係（かかり～うけ）を明確に表現する。
修飾語はできるだけ被修飾語の近くに置く。
強調したい内容を先に書く。
- ⑥ 文末の表現を明確にする。（事実、意見、推測等の区別を明確に）
- ⑦ 一文を長くしない。一文の長さの基準はおおよそ50～60字以内。
- ⑧ 一文にはひとつの事柄だけを述べる。（一文一意主義）
- ⑨ 一文の中で、同じ意味の言葉を重複して使わない。
- ⑩ 段落を長くしない。200～300字程度、長くても400字をこえないように。
- ⑪ 句読点や記号は、正しく使う。

(3) 内容の記述について

- ① 要点（論点）を落とさないようにする。
- ② 実例や事実をできるだけ多く入れて書く。
- ③ 抽象的な表現には、なるべく実例をそえる。
- ④ 適当な範囲で、読み手の注意を引く適切な題名や小見出しを入れる。
- ⑤ 文章をできるだけ断定的に書く（生き生きとした説得力のある文章になる）。

(4) 分かりやすい語句を使う

- ① 標準的な語句、自分が使いなれている語句を使う。
- ② むやみに専門用語や外国語を使わないようにする。
- ③ あて字、勝手な略字を使わない。



ちぐはぐテーマ例

めざす児童生徒像
つけたい能力があいまい

①

〈主〉 言語活動の充実を図る指導の工夫
〈副〉 各教科における「書く活動」を通して

〈主〉 論理的に書く力を育む小論文指導の工夫

〈副〉 ICTを活用した情報収集と文章構成の協働学習を通して

②

〈主〉 主体的に学習する子を育てる指導の工夫
〈副〉 算数科における「確かな学力」の定着を
通して

主題より副主題が大きい

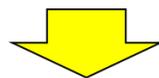
〈副題例〉 算数科における「書く活動」と評価の工夫
を通して

ちぐはぐテーマ例

算数に課題があったのに

③

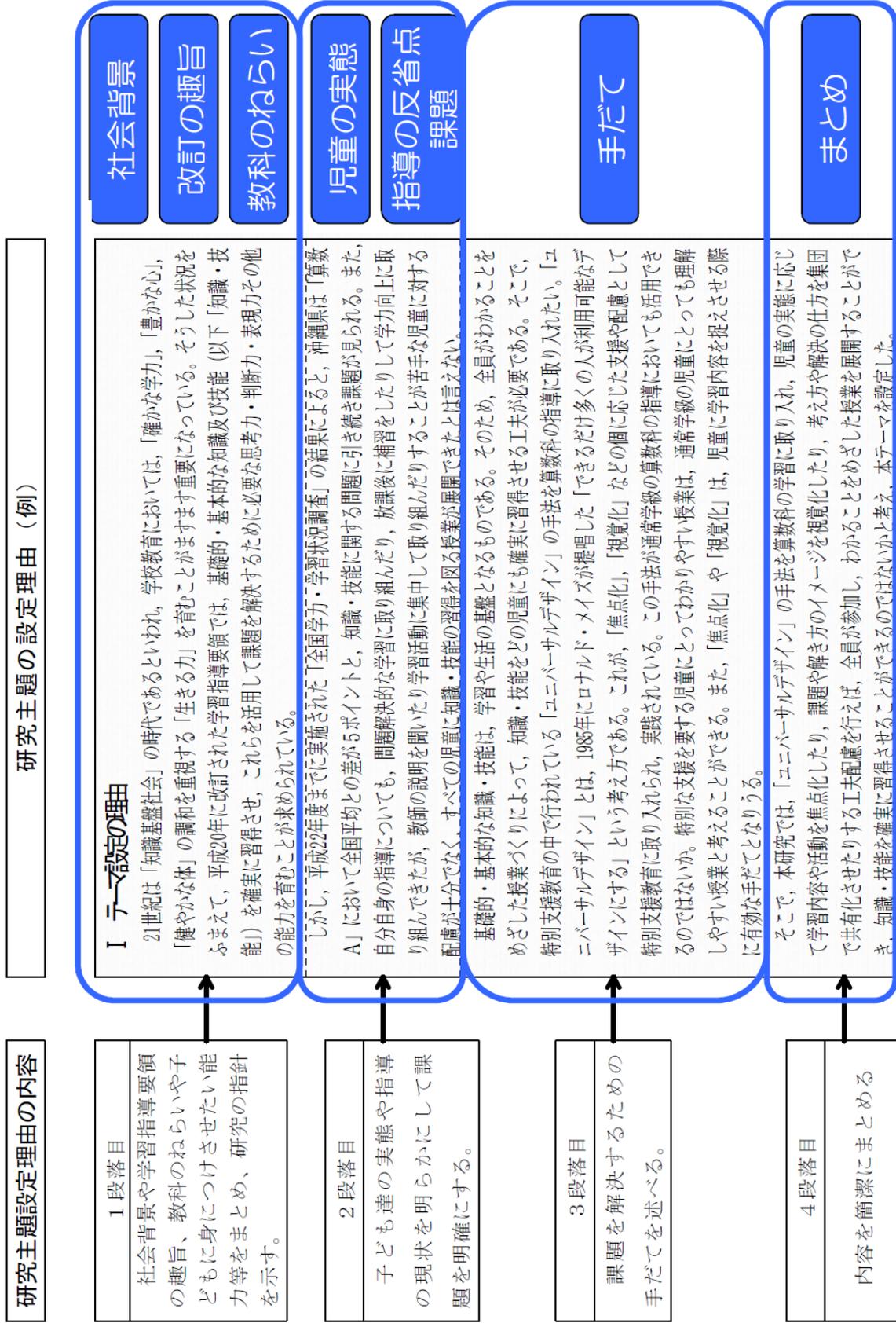
リサーチ・・・全国学力・学習状況調査の結果、国語
Bでは県平均より2ポイント、算数B
では13ポイント下回った。
算数の文章問題に対応できないのは国
語の読解力がないからであると考え、
以下のテーマを設定した。



〈主〉 読解力の向上をめざして
〈副〉 国語科における「読解力」を高める指導を
通して

研究が国語科になった

テーマ設定理由の構成（例）



社会背景
改訂の趣旨
教科のねらい

児童の実態
指導の反省点
課題

手だて

まとめ

Ⅶ 仮説の立て方

1 仮説の機能

私たちは、問題に直面したとき、その解決対策について思いをめぐらす。そして、「よし、こうしよう」という決断がなされる。これは、一種の仮説である。

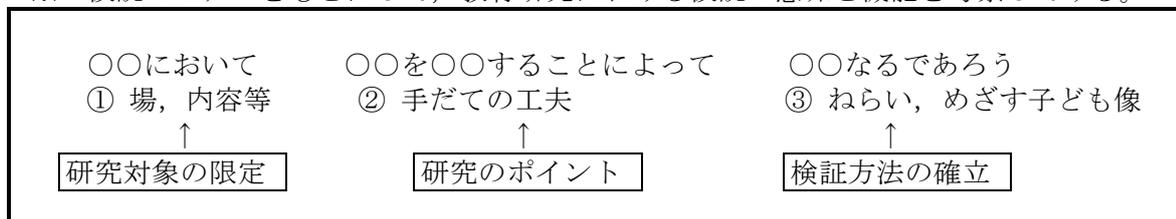
研究も同じ流れをたどる。したがって、**仮説の良否は、研究そのものを左右する。**

仮説とは、平易には研究の見通しに当たるもので、単なる想像ではなく、ある程度の客観性をもつ結果についての仮の判断である。

宗像誠也は**正しい仮説の特徴**を次のようにあげている。

- (1) 正しい仮説は、観察された事実と合致する。
- (2) 正しい仮説は、すでに知られている事実と背馳するものであってはならない。
- (3) 正しい仮説は、できるだけ簡明なことばで述べられなければならない。
- (4) 正しい仮説は、演繹的推理に堪えるものでなければならない。

※ 仮説のモデルをもとにして、教育研究における仮説の意味と機能を考察してみる。



①……「場」を示し、研究の対象・範囲を規定する。すなわち、「教科の領域」を示すこともあるし、「学習過程」「内容・素材」を示すこともある。

②……「手だての工夫」を示す。」ここにその研究の重要性、有効性が凝縮されている。

③……児童・生徒の変容の姿が示される。研究によって児童・生徒をどのように変えようとするか、めざす児童、生徒像が示される。これによって検証の方法が固まる。

2 仮説の設定

仮説の三つの機能を考慮して仮説を設定する。

- ① どこで(場, 対象) **研究の領域を限定する**
- ② 何をどのようにすることによって(内容, 方法上の工夫) **研究の重点を決める**
- ③ どう現状を変えようとするのか(児童・生徒の変容の姿) **研究の結果を予測し、筋道を立てる**

このうち、①と③は、問題意識の段階ですすである程度明確になっているはずだ。したがって、②が仮説の最も重要なポイントである。

《 例 》 小学校算数

研究主題

知識や技能を活用する力を育てる学習指導の工夫

— 日常生活との関連を図った問題解決的な学習を通して(第3学年) —

〈研究仮説〉 ①数量関係「表とグラフ」の学習において ②日常生活との関連を図った問題解決的な学習を通じた学習指導によって ③算数を身近なもの・役立つものとして感じることができ、習得した知識や技能を学習や生活に進んで活用する力を育てることができるであろう。

研究仮説の設定

研究仮説とは…

研究対象に関する手だてと結果の見通し

児童生徒をどのように変容させるか

③めざす
児童生徒像

どのような場や範囲で

①場や範囲

このようにするとよいのではないか

②手だてや重点

研究仮説の設定手順

③目指す児童生徒像を明らかにする

①研究の場や範囲を指定する

- ・ 教科・領域
- ・ 単元や1単位時間の指導過程
- ・ 学校、家庭、地域

②具体的な手だてを明らかにする

(研究の内容)

- ・ 学習目標の構成
- ・ 単元計画
- ・ 教材、教具の開発
- ・ 評価
- ・ 学習環境
- ・ 発問内容

(研究の方法)

- ・ 学習過程
 - ・ 学習形態
 - ・ 学習課題の提示方法
 - ・ 教具の使用法
 - ・ 評価の方法
 - ・ 発問の工夫
- などから具体化

- ・ (場)において
- ・ (手だて)することによって
- ・ (目指す児童生徒像)になるだろう

〈主題〉 数学的思考力・表現力を育む指導の工夫
〈副題〉 算数科における「発問」の工夫とノート活用を通して

〈研究仮説：例〉

算数科の指導において、

①場

②手だて

子どもの興味・関心を高める「発問」の工夫をする
とともに、思考過程をノートに残させることにより、

考えたことを説明しあう算数的活動を充実させること
ができ、

③目指す児童像

数学的思考力・表現力を育むことができるであろう

不十分仮説例

場がない
研究対象が
限定できない

どう精選するか
どんな教材か

適切とは？

どう工夫するか

「適切」や「工夫」等の言葉が
安易に使われている

精選した教材と適切な資料をもとにして学習過程を工夫し、
活用の学習過程を繰り返し踏ませれば、確かな学力が育成
されるであろう

活用の活動で教え込み
の授業をするの？

「学力の3要素」の
どの力の育成がゴール？

どう工夫するか、どうなっていること
が（適切）なのか、中身がない



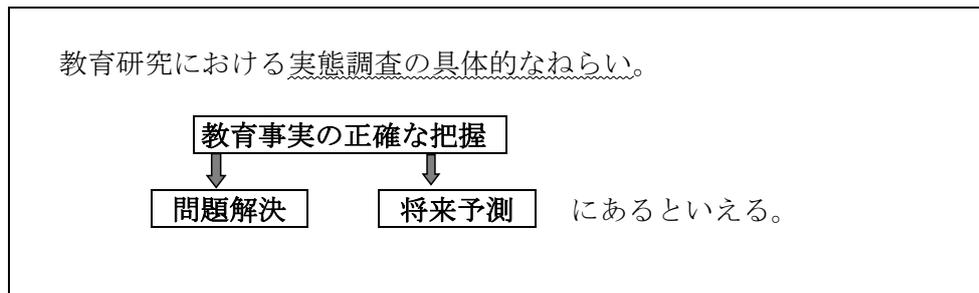
具体性
独自性

VIII 実態調査とその処理

1 実態調査のねらい

教育研究を始めるときには、まず対象とする児童・生徒とそれを取りまく条件を正確に把握しなければならない。また、研究の過程では、仮説の有効性を確かめるための調査が必要になる。

特に個人研究では、それほど大がかりな調査をするわけにはいかない。できるだけ効率的に、しかも信頼性の高い資料を収集することが要求される。



(1) 研究主題設定のための基礎調査

一般的傾向を把握し、問題領域を発見するのが主なねらいである。

ここでの調査は、論文における「主題設定の理由」の根拠ともなるものであり、研究主題設定の必然性を生み出すものである。漠然とした問題意識が、この調査によって焦点化され、どこに問題があり、どの方向に改善すればよいか明確になる。しかし、学校教育目標の設定に際して、かなり綿密な調査が行われていたり、標準学力検査が実施され、結果が分析されていたりする場合は、それを利用することもある。

(2) 研究計画・仮説設定のための調査

研究計画作成や仮説設定のための資料を得るのがねらいである。

主題の範囲内での（問題領域に限定した）調査を実施することになる。

要するに、主題解明の前提となる調査だから「まとめ」の段階でその前提がどのように変わったかをとらえる。

(3) 検証のための調査

仮説の有効性を直接調べるための調査だから多くの場合仮説を取り入れた実践の前と後に実施し、その変化をとらえる。

※調査用紙作成上の留意点

- ① 調査項目は実際に集計する必要な事項だけにとどめる。
- ② 被調査者の氏名は、必要がなくしかも氏名を記入させないほうが調査しやすい場合は除く。
- ③ 個人のプライバシーに触れるような事項は避ける。
- ④ 質問はできるだけ簡単・明確でやさしい表現にする。
- ⑤ 質問は答えやすい方法でなければならない。できれば「はい」「いいえ」などのようにどちらかの選択で答えられることが望ましい。
- ⑥ 質問の順序は、一般に全体的な質問からしだいに特殊な質問に進むように配列する。

2 実態調査の方法（例）

(1) 諾否式

設問に対して賛否，諾否などの形で解答を求め，意見や気持ち，意志などを明らかにする場合に用いる。結果の処理は，反応した人の人数または百分率によって整理し，比較，解釈する。

① あなたは学習塾へ行ったり，家庭教師についたりしていますか。どちらかを選んで に記号を書いて下さい。

ア はい

イ いいえ

(2) 評定尺度式

回答をさらに細かく弁別したい場合に用いる。感情や意志，確信の強さなどの程度を調べる場合よく用いる質問形式である。

処理は，程度の低い方から 1， 2， 3・・・のように段階点をあたえ合計点の多い方から並べたり平均値を求めて尺度上の位置を示したりする。

① 学習に興味を持ちましたか。

	ぜんぜん	あまり	少し	かなり	たいへん

(3) 順位式

設問に対して，一定の性質や見地に従って順位づけ配列させる方法。

処理は，各項目の得た順位をそのまま加えて，数値の低い方から並べるか，高い方から並べるかにして考察する。

① あなたは，どの教科の勉強が好きですか。好きな順から 1～5 の番号を書きなさい。

国語（ ） 社会（ ） 数学（ ） 理科（ ）・・・

(4) 多肢選択法

予め用意しておいたいくつかの選択肢の中から回答を選ばせる方法。

ひとつだけ選ばせる単数回答式と，ある基準に合っているものすべてを選ばせる複数回答式がある。しかし，すべてにわたって選択肢を準備することは困難なので，「その他」という回答項目を付け加えておく。

① あなたは現在，何かお稽古ごとをしていますか。つぎの中からあてはまるものを選んでその記号に○をつけなさい。

ア 習字

イ 音楽（ピアノ等）

ウ 絵画

エ 舞踊

オ 珠算

カ その他

Ⅸ 研究内容について

テーマ及び仮説に沿った理論研究・実践研究を行う。

自分がやろうとしている実践の正当性（裏づけ）が理論研究・実践研究である。自分の研究が自信を持って進められるよう、十分な理論研究・実践研究が必要である。

1 理論研究について

(1) 文献や先行研究を参考にし、テーマに基づいた理論研究を書く。

- ・言葉の定義づけ
- ・学習理論について
- ・その他

(2) 引用に終始することなく、独自の意見やまとめを考える。

→ 引用は自分の考えを補強するものであることを押さえる。

2 実践研究について

(1) 理論研究からどのような新しい実践が導き出されたかを論述する。

(2) 実践研究内容の3つの要素

- ① 学習指導過程（活動）・・・どんな活動をさせるか。（単元構成や授業構成，等）
- ② 手立て（支援）・・・教師はどのような支援（指導の工夫）を図るか。
- ③ 教材・・・何を取り上げ，どう解釈するか。

新しい実践の明確化 → 研究の意義・価値

新しい実践の具体化 → 「Ⅲ 指導の実際」へ

《 例 》 中学校国語

論理的な文章を書く力を育成する授業の工夫

— 段落構成カードを用いた練り合い活動を通して（第1学年） —

〈研究仮説〉

文章を書く過程において、段落構成カードを用いた練り合い活動を行うことにより、「論理的に考える力・表現する力」が育成され、論理的な文章を書く力が育つであろう。

Ⅱ 研究内容

1 論理的な文章を書く力を育成するには

- (1) 論理的な文章とは
- (2) 作文指導の目的
- (3) これまでの作文指導における課題

2 論理的な文章力を育成する授業の工夫

- (1) 段落構成法の工夫
- (2) 練り合いの工夫
- (3) チェックシートの作成

Ⅲ 指導の実際

理論研究



実践研究
どう実践に取り入れるか

X 文 献

1 文献の重要性

(1) 先取権

文献は論文作成のために不可欠の要素である。いかに努力を要した研究であっても、同じことをすでに他の学者が発見していたとすれば、それは単に先人の研究の追試にとどまる。

(2) 文献調べの時期

研究を始める前には、そのテーマについて先人の得た成果の大略を知っていなければならない。しかし、あまり詳しく知ろうとすると、文献集めに時間をとられて、自分の研究を開始する機会を失いかねない。

文献集めは、研究開始前に完了する必要はない。むしろ研究進行中に新しい文献を見逃さないようにすることが大切である。文献からヒントを得て、急に光がさしたように新しい道が開けてくることもある。

2 引用の仕方

「引用」とは、「自分の主張を述べていくなかでその主張を補強するために他人の主張を引っ張ってきたり、他人の主張や考えを論評する」（関裕行「論文の引用と著作権」）とある。

自分の見解か否かを明確にするために、また、剽窃にならないためにも、「引用」の仕方には注意すべきである。

「引用」の仕方は以下の精神に基づいて考えられる。

第1に著者の書いたものと他の人が書いたもの（あるいは考えたもの）の間にはっきりした弁別をつけること。

第2に、「引用」されたものに読者が当たろうとしたときそれが可能になっていること。の二点にまとめることができる。短く言えば、知的所有権と情報へのアクセスを確保するということである。

(1) 文献の引用

論文に付ける文献表（文献リスト）は、本文のどこかに引用したものに限るのが原則である。

文献の引用のためには、原文を直接読まなければならない。他人の論文で内容を知り、原文を確かめずに引用することを「孫引き」という。孫引きは一度他人の手を経たものであるから内容に誤記があるかもしれない。孫引きを避けるには極力原文を入手することである。

(2) 「引用」するときの留意点

- ① 引用部分はできるだけ短くする。
- ② 引用部分は「 」でくくる。
- ③ 「 」中の引用文の「 」は、『 』でくくる。
- ④ 「 」中の引用文に誤字などの客観的な誤りがあっても、引用者が勝手に訂正してはならない。明らかな誤り等があるときには（原文どおり）などと記しておく。
- ⑤ 引用文が長すぎて、途中の特定箇所を省略したいときは「・・・（中略）」などと記す。
- ⑥ 長い引用文は、「注」で示すか改行して1～2マス下げその箇所だけを取り出す。
長い引用文は、改行しているので「 」はなくてよい。

※引用の仕方には、直接引用（原文をそのまま入れる）と、間接引用（原文を自分の文章で要約し直して入れる）がある。

間接引用では、原文の内容を的確に要約して書き直すが、原文がいろいろに解釈されるようなときは、直接引用の方がよい。直接引用は、原文と一字一句違わないようにする。

(3) 「引用」の例

- ① K・E・ボールディングは「知識の経済学と経済学の知識」の中で、「際限のない成長を信じているのは狂人か経済学者かぐらいだ」と述べた。たしかに経済成長が無限に続くというのは狂人の幻想であり、経済学者がすべて信じているのではない。
しかし、ボールディングの皮肉がなりたつかのように、アダム・スミス以来、経済学者には成長に対するやみがたい希求がある。
- ② 堀祐嗣(2002)は、「文学教材の指導には、『表現技能獲得型』と『読書意欲喚起型』の二つの方向がある」とし、「『表現技能獲得型』は、学習指導要領第2・3学年の『読むこと』の指導事項『ウ表現の仕方や文章の特徴に注意して読む』の方向性を大きく担わせた指導である」と述べている。
つまり、量的にも質的にも、理解から表現への転換が求められている現在、表現力の育成においても、ただ単に「書くこと」の領域にとどめず、「読むこと」の領域の指導と関連を図りながら育成されることが必要であると考ええる。

(4) 当総合教育センターの引用例

- ① 平安期の散文の文体で、はじめてまとまったものを書き残した識名盛命の『思出草』（1700）
- ② 「論理的」という定義を、宇佐見寛(2001)は、「異なる立場の論者による批判に対し防衛力がある（すきが無い）ということ」と述べている。
また、宇佐見は・・・・・・・・・・。
※2回目以降の記載は姓だけでよい。

(5) 当総合教育センターの記載例

〈参考文献〉 ■…全角空欄

小林康夫・船曳建夫編■2003■『知の技法』■東京大学出版会
教育論文の書き方研究会編■2002■『教育論文・研究報告の書き方』■教育出版
高橋俊三著■2001■『国語科話し合い指導の改革』■明治図書

〈参考Web サイト〉

文部科学省■2016■「教育課程部会 社会・地理歴史・・・グループ（第14回）配布資料
<http://www.skeihkandowkeinkozienohuroki>（最終閲覧2019年10月）

※出版年の新しい順、同じ年の場合は著者を五十音順に掲載する。

- ① 参考文献がないのは独断的文章であるという証拠になる。
- ② 書籍名を整然と列挙する。特に出版年を書き落とさないように留意する。

X I 検証の方法

1 検証の意味とねらい

検証とは、仮説の有効性を調べることである。自然科学の分野では、実験によって仮説の検証がなされるが、教育研究では、実践によって検証がなされる。特に私たちは、日々の教育活動の中で検証をするのだから、本来の教育活動のねらいを阻害してまで実験をすることはできない。その意味では実践の要素が強く、いわば実践的活動である。

したがって、この実践的活動による幼児・児童・生徒の変容が、仮説の有効性を立証するデータとなる。仮説が、ある手だてを講じることによって「個々の生徒の学力」をねらっているならば、指導後、生徒の学力がはたして伸びたかどうかできるだけ正確に把握しなければならない。

幼児・児童・生徒の変容をとらえるためには、事後調査に対する事前調査が必要である。

2 検証計画を立てるために

検証計画を立てる際に配慮すべき事項をあげておく。

(1) 検証の対象と期間を設定する

ある教材と期間を選び、そこで検証データを収集する方法が、最も一般的だし、効率的だ。多くの場合、その場面は授業になる。検証授業は、1時間ではなく、少なくとも単元全体を通しての計画が必要である。

(2) 検証の場面を設定する

単元あるいは1時間の授業の中に、何か所かの検証場面を設ける。そのためには、研究仮説をさらに具体化する必要がある。すなわち、研究仮説に基づいて、「この授業ではここでこのような手だてをとる。そうすれば児童生徒はこのような反応を示すであろう」という授業仮説を設定する。そして、果たしてそのような反応があったかどうか調べる。

このような授業仮説による個々の場面での児童・生徒の反応を分析・総合して研究仮説の有効性を立証する。

(3) 検証の焦点化のための授業仮説の設定

検証をできるだけ客観的にし、検証データの収集を効果的に行うために、研究仮説をさらに具体化した仮説を授業仮説と呼ぶ。

授業仮説に含まれる一般的な要素

- | | | |
|------------|-----|---------------------------------------|
| ○授業過程のどこに | ・・・ | 1時間の授業であれば導入、展開等。
単元であれば、第2次追究段階等。 |
| ○どのような手だてを | ・・・ | 方法、教具、資料、機器等の具体的なもの。 |
| ○予想される反応 | ・・・ | 児童・生徒の反応、変容の具体的な予測。 |

これによって、授業のどの場面でどのような反応を捉えればよいのかを明確にすることができ、検証の焦点化が図られる。

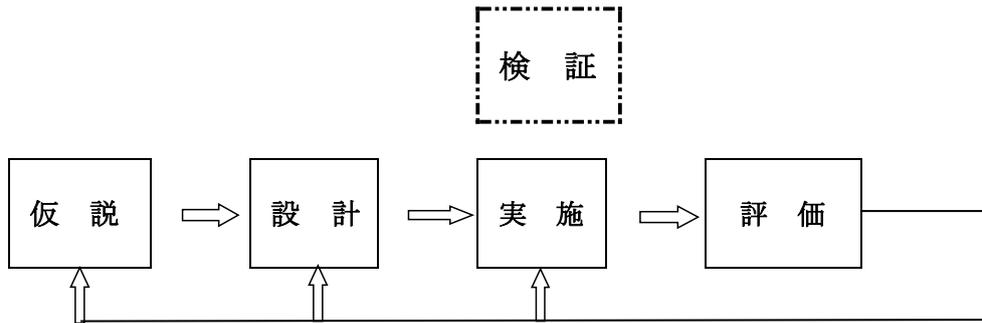
3 授業設計の過程と工夫

(1) 授業仮説に基づく授業設計

研究の一環としての授業では、「この学習目標を達成させるため、このように内容を構成し、このような過程を通して、このような指導法を用いて展開すれば、児童・生徒をこの姿までに変容させることができる。」といった授業仮説に基づいて実施される。

「このような・・・」という部分が仮説で、その当否を吟味し授業にあてはめ、有効性、修正、改善点を明確にしていくのが検証である。

研究のための授業のプロセスは、大まかにとらえると次の図表のようになる。



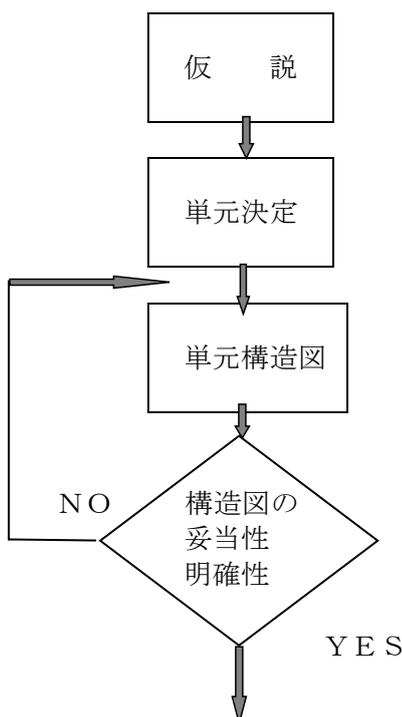
仮説に基づいて、授業設計を行い、授業を展開し、得られたデータをもとにその有効性を確かめることになる。この結果から不満足なデータしか得られなかった場合は、フィードバックを行い、具体的なデータを基にして、仮説を具体的に適用したそれぞれの過程を吟味し、場合によっては授業仮説の修正や改善を図ることも考えられる。

そこで、このようなフィードバック機能が十分可能な具体的な手だてを備えておくことが必要である。また、授業のプロセスのそれぞれの場において、具体的なデータが収集されるように当初から計画しておくことが大切である。

(2) 授業設計から実施までの工夫

授業設計のプロセスをフローチャートで示すと以下のようになる。

教材の選定と構造化



検証を行う授業は、研究目標に適した単元や教材を選定することが大切である。

目標が「認知面」に深くかかわるか、「情意面」あるいは「技能面」に深くかかわるか等の傾向を考えて、ふさわしい単元を決定する必要がある。

単元を決定したら、学習指導要領、教科書、参考文献、資料などを手がかりにして、対象教材の位置づけを明確にする。

次にその単元の中心概念と、それを構成する基本的概念や、要素となる内容を明らかにするため、単元構造図を作成して、構造的な視点から検討する。

なお、その単元だけでなく前後の単元の系列、学年の系列なども調べて研究し、単元の位置づけを明確にする。

4 考察

考察の部分の大筋は、「自分はこうした実践を通して得られた資料・データを、このように分析した結果このような事実が現れました。その事実に対する自分の見解・意見はこうです。」とはっきりさせて、その事実（問題）の位置づけを決定し自説を確立することである。

考察の項のポイントは実践事実の客観的考察である。したがって、自説の確立のためには研究者の希望と客観的事実を混同しないようにし、資料やデータを十分自分のものとして基礎を固め、当初からの理論研究とあわせて自説を盛り上げるようにする。その上で、自分の見解・意見は率直に、自信を持ってしかも謙虚な態度を保ちながら、論理立てて述べる必要がある。

《 例 》

分析・結果	}	<p>単元学習前・後のアンケート調査の結果では、「前に学習したことを使っている」と回答した児童は、他の学級では学習前が 78%、学習後が 80% となってあまり変化がみられない。しかし、本学級では学習前は 54% であったが、学習後が 100% と大幅に増加した。</p>
		<p>また、単元学習後の感想の中には、「今まで習った足し算の暗算や筆算を使って合計を求めることが出来た。」「1年や2年で勉強したことが3年の棒グラフにも使われることに気づいた。」「私たちの生活の中で一番関係があるのは算数だ。これからも算数を生活でどんどん使っていきたい。」など、算数の学習における既習事項の活用や日常生活の中での算数の活用についての記述が見られた。</p>
位置づけ	}	<p>既習事項や日常生活との関連を常に意識させる学習指導の工夫により、児童は既習事項や既有経験を活用することで、学習や日常生活の中の課題を解決できることに気づいたものとする。また、実際に調査する活動や、それを表や棒グラフにまとめて考察する活動によって、本単元で習得した知識や技能が日常生活の中で活用されるという実感を体験を通して得るとともに、学習意欲の高まりもみられたものとする。</p>
		<p>これらのことから、授業の始めに既習事項（前時の学習を含む）を想起させ学習の系統性に気づかせたり、調査的な活動や作業的な活動などの算数的活動を取り入れたりすることは、児童の知的好奇心を引き出すだけでなく、習得した知識や技能を活用する力の育成や意識づけに有効であるとする。</p>
見解	{	

5 成果と課題

研究のまとめは、研究の主題、仮説との関連性の上、研究結果をもとにして持論による主張が行われる。ここは、簡潔に印象的にまとめたいものである。

具体的には、これまでの研究との相違点があれば指摘し、新しい知見が得られたときはそれを列挙する。したがって、事実にもとづかない意見・希望は書くべきでなく、淡々と書いて自画自賛は控えるようにする。しかし、独創的な研究部分については、明瞭にし、強調して、相違点をはっきりさせる必要がある。

人によっては、研究の主題と結論だけ読むということもある。よって、研究のまとめがよくわかるようにまとめることが望まれる。

今後の課題は、一連の研究の反省点を、研究仮説、研究の内容と方法の両面から明らかにする。特に研究の事実からのものを中心に挙げるようにする。

要は、研究により何がわかり、何が問題として残ったかを明確にすることである。

※ 謝辞という項目は設けないのが普通である。

X II その他

1 推敲の視点

自分では十分に考え、適切な表現をしたつもりの方でも、第三者から見ると、不自然であったり、誤解を招く文章であったりすることがある。次の観点から推敲する。

(1) 構成について

- ① 論文の体裁が整っていて、形式が全体を通して統一されているか。
- ② 段落は適切に分けられているか。
- ③ 見出し、小見出しを十分に活用しているか。

(2) 内容・論点について

- ① 主題や項目に照らして、記述内容がずれていないか。
- ② 主題や項目に直接関係のない記述やデータは含まれていないか。
- ③ 重要な内容を落としていないか。
- ④ 引用箇所と自分の論述箇所の区別がはっきりしているか。
- ⑤ 引用箇所の出典を明らかにしているか。
- ⑥ 材料不足のため、書ききれていないところはないか。
- ⑦ 疑問をもつ人、反対の立場の人を納得させうるか。

(3) 記述について

- ① 箇条書きにしたほうがよい部分はないか。
- ② 図や表で表したほうがよい部分はないか。
- ③ 誤字、脱字、当て字がないか。
- ④ 句読点の欠落、記号の使用は正しいか。
- ⑤ 図表の内容で欠落しているものや、計算値の誤りはないか。
- ⑥ 「である」調、「です・ます」調が混在していないか。
- ⑦ 差別表現をしていないか。

(4) 資料について

- ① 資料は必要なものか。
- ② 確実な資料が使われているか。
- ③ 著作権は守られているか。
- ④ 図表の鮮明さ、大きさはよいか。

※よい「報告書」の条件

- ① テーマは適切なものが選ばれ、しぼり方もよい。
- ② 関係のある主要文献が広く参照され、よく消化、吸収されている。
- ③ 事実と意見の区別が明確であり、事実は正確で、意見、解釈、評価が妥当である。
- ④ 構成は明快で、理論的で、レポートの内容・目的に適している。
- ⑤ 文体が統一され（原文の引用を除く）正確・平易で読みやすい。
- ⑥ 見出しのつけ方、引用の仕方は効果的である。引用は出典を明らかにしている。
- ⑦ 図、表などが効果的である。
- ⑧ 注、参考文献の書き方もよい。

2 句読点・その他の記号（符号）の使い方

句読点の打ち方について厳密な規則はないが、法律などでは主語、接続詞の後にも読点を打つ習慣があるが、それを科学論文にも応用すると明らかに読点が多すぎる。そこで、具体的な場面での大体的めやすを以下に示した。

(1) 【 句点の打ち方 】

- ① 一つの文を完全に言い切ったところに用いる。

〔例〕 ある日の暮れ方のことである。

- ② () や「 」の中でも、箇条書きの場合でも、文の形をしているときには用いる。

〔例〕 「この船は、西へ行くんですか。」

(満30歳までの方に限ります。)

1 芝生に入らないでください。

2 木の枝を折らないでください。

〈注〉 新聞記事や小説では「僕は歩いていく」と句点を打たないことが多い。

- ③ 文末に () がつくときは () の後に打つ。

〔例〕 これに図示する (第2図) 。

※ 用いない場合

- ① 題目・標語・事物の名称などを掲げる場合。

〔例〕 1 申請者の氏名・住所

2 建築の目的

- ② 言い切った語を、「 」を用いずに「と」などで受ける場合。

〔例〕 心の底からよせばよかったと思った。

〈注〉 各箇条を「こと」「もの」などで結ぶ場合は句点を打つのが一般的である。

(2) 【 読点の打ち方 】

※ 読点は点(、)を用いる。引用文がコンマ(,)の場合はコンマ(、)を用いる。

- ① 主語を示す「は」「も」などのあとに用いる。

〔例〕 沖縄は、私にとって故郷である。

- ② 文頭におく接続詞・感動詞・副詞などのあとに用いる。

〔例〕 ・ しかし、私は反対だ。

・ ああ、来てよかった。

- ③ 語句を対等に並べる場合。(並列的に掲げる)

〔例〕 社会的、経済的、文化的摩擦の原因。

- ④ 会話文や引用文の前後。

〔例〕 弟が、「やっぱり、兄ちゃんはずるいや。」と言った。

- ⑤ 「 」を「と」で受けて、すぐに述語が続かない場合。

〔例〕 弟が、「やっぱり、兄ちゃんはずるいや。」と、半ばあきれたように言った。

- ⑥ 「 」を使わない短い会話文の場合。

〔例〕 先生は、なんだね、と尋ねた。

- ⑦ 条件をつけたり、限定を与えたりする場合。

〔例〕 君がそういうつもりなら、僕はもう知らん。

- ⑧ 文を中止する場合。(連用中止法)

〔例〕 花は咲き、鳥は歌う。

- ⑨ 倒置した表現の場合。

〔例〕 ・ 川の中から、大量の金が発見された。

・ 言うまでもないだろう、そんなことは。

- ⑩ 語句を隔てて修飾する場合。
 [例] 明日，ヨーロッパに向け出発します。 昔，男ありけり。
- ⑪ 読み誤りや読みにくさを避ける場合。
 [例] ・ 容姿より，より以上に態度に気をつけなさい。
 ・ 家に，はいれない。

(3) 【 符 号 】

符 号	呼び方	使い方	用 例
・	なかてん 中黒	①名詞を並列する場合 ②日付けや時刻を略して表 す場合 ※数詞の並列には用いない	① 演劇・映画・放送など ②平成 15・9・1 ※鳥が三，四羽飛んで行く
()	まるかっこ パーレン ※ 括弧 の 入れ子	すぐ前に述べた事柄に説 明や注を加える場合 [(< >)]	①春秋時代 (前 770 ～前 403)
「 」	かぎ	①会話や引用であることを 示す場合 ②ある言葉を特に注目さ せる場合	①「この船は，どこへいくの ですか。」と彼は聞いた。 ②教えられた「お屋敷」に向 かって歩きだした。
『 』	二重かぎ	①「 」の中に，さらに 「 」が入る場合 ② 書名・雑誌名などを 示す場合	①「きみは，『火事だ。』とい う声を聞いたか。」 ②これは『徒然草』の一文で ある。
—	ダッシュ 点 線	①後や途中を省略した ことを示す場合 ②余韻をもたせる場合	①黄色い蛾，赤い蛾 — す べての蛾が，..... ②それは

※ () を文末に参照の意味で置くときは，句読点は () の外に打たなければならない。これは外国文でも同様である。

() の中が比較的長い完結文になっているときは，() の前に句点をおいて一度文を切り，() 内の最後にも句点 (ピリオド) を打ってから () を閉じる。そのあと日本文では必ず改行する。

[正] その傾向は明らかであった (図 1)。次にそれを分析すると…

[誤] その傾向は明らかであった。(図 1) 次にそれを分析すると…

[正] その傾向は明らかであった。(それに反する例は 1 例しかなかった。)

〈主な参考文献〉

小林康夫/船曳建夫編 2003 『知の技法』 東京大学出版会

群馬県教育研究所連盟編 2001 『実践的研究のすすめ方』 東洋館出版社

福岡県教育研究所連盟編 1981 『教育研究のすすめ方・論文のまとめ方』 第一法規

「文部科学省用字用語例」 (抄)

出典 『公文書の書式と文例』

- 1 ▲＝表外漢字 △＝表外音訓（常用漢字表に掲げられていない漢字及び音訓を指す）
- 2 「書き表し方」の欄に示した各語句の書き方のほかに、特別な漢字使用等を必要とする場合には、表外漢字を使用しても差し支えない（その語が読みにくいと思われるような場合は、振り仮名をつけるなど、適切な配慮をすること）。
- 3 漢字書きで示した語についても、場合によっては、仮名書きにしても差し支えない。
- 4 「備考」の欄・・・具体的な使用例、他の語句への言い換えの例及び関連のある語等を適宜示した。

見出し	△▲	書き表し方	備 考
あう		合う 会う 遭う	計算が合う 客と会う 災難に遭う
あえて あたりまえ あらわす	△敢て	あえて 当たり前 表す 現す	あえて・・・する 「表わす」 許容 「現わす」 許容
あながち ありかた ありか ありがたい ありがとう あるいは あわせて (副詞) あわせて (接続詞) いう	△強ち △在り処 有り難う ▲或は ▲云う	あながち 在り方 在りか 有り難い ありがとう あるいは 併せて あわせて 言う ・・・いう	 有り難がる、有り難み ありがとうございます 併せてお願いする あわせて、・・・ 彼の言うこと ・・・という場合、そういうこと
いただく		頂く ・・・(て) いただく	ご返事を頂きたい 報告していただく
いつ いったん いまだ いろいろ いわゆる うえ うける	△何時 ▲一旦 △未だ 色々 △▲所謂	いつ いったん いまだ いろいろ いわゆる 上 受ける 請ける 後ろ うたう 内 うち うんぬん 得る おいて 大方 おおむね 行う	 作成する上で参考にする 注文を受ける 請け負う 後ろ姿 条文にうたってある 部屋の内 そのうち、知らないうちに 許可を得る、やむを得ない ・・・において 大方の意見 調査を行った。

<p>おのずから おびたしい おぼしめし おぼつかない おもしろい おもに おもむき おもむろに およそ および (接続詞) おろ おろか</p> <p>か</p> <p>かい かつ かつて かな かならず かまう</p> <p>がまん からむ かれ かろうじて かわす かんする きく</p> <p>きする きたす きたる きはく きびしい きわめて ください</p> <p>くりかえす くる</p> <p>くれぐれも くれる</p> <p>くろうと げ (接尾語) ご こえる</p> <p>こと</p>	<p>△自ら ▲夥しい △思し召し △覚束ない</p> <p>△徐に △凡そ</p> <p>△居る</p> <p>△疎か ケ</p> <p>△▲甲斐 且つ ▲嘗て</p> <p>▲稀薄</p> <p>△呉々も △呉れる</p> <p>…気</p>	<p>おのずから おびたしい おぼしめし おぼつかない 面白い 主に 趣 おもむろに およそ 及び おろ 愚か … (は) おろか か 箇 かい かつ かつて 仮名 必ず 構う … (て) もかまわない 我慢 絡む 彼 辛うじて 交わす 関する 聞く 聴く 効く 利く 期する 来す 来る 希薄 厳しい 極めて 下さい …ください 繰り返す 来る くる くれぐれも くれる … (て) くれる 玄人 …げ 御 越える 超える 事 こと</p>	<p>おのずから理解できる。</p> <p>A及びB …しております 愚かなこと 財産はおろか命までも 3か月 (年, 所, 条) 何箇月 二 三箇所 …かいがあつて</p> <p>片仮名, 平仮名, 仮名遣い</p> <p>構わない, 費用に構わず 外出してもかまわない</p> <p>文書を交わす 提案に関する発言 物音を聞いた 音楽を聴く 効き目がある 目が利く …を期して 支障を来す 来る○月○日</p> <p>極めて大きい 資料を下さい。 問題点を話してください。</p> <p>人が来る。 寒くなってくる。</p> <p>資料をくれる 援助してくれる</p> <p>惜しげもなく 御案内 山を越える 100万を超える額 事を起こす。研究している事 …ことを決意した。(抽象的)</p>
--	---	---	---

<p> ごとく ごとに こども ことわる この このごに ごぶさた これ さいわい さかのぼる さき さきに さきほど ささいな さしあげる さしえ さしきわり さしず さしずめ さすがに さばく さらに (接続詞) さらに (副詞) さる しかた したがって (接続詞) しめきり じゅうぶん ずいぶん すべて ぜひ せっかく せんだう そうごう そうてい そうとう それ そろう ただし (接続詞) たち たとえば たのましい たび たぶん たまわる ため だめ ちなみに ちゅう </p>	<p> △如く △…毎に ▲此, ▲之の ▲御無沙汰 △是, ▲之 ▲遡る 先程 ▲些細な △挿画 差し詰め △△流石に ▲捌く 従って ▲メ切 充分 △全て, 総て, 凡て 折角 ▲煽動 ▲綜合 ▲装幀, ▲装釘 △夫, ▲其 ▲揃う 但し …達 頼母しい △為 △因みに ▲註 </p>	<p> ごとく …ごとに 子供 断る この この期に… ごぶさた これ 幸い さかのぼる 先 さきに 先ほど ささいな 差し上げる 挿絵 差し障り 指図 さしずめ さすがに さばく 裁く さらに 更に 去る 仕方 したがって 締切り 十分 随分 すべて 是非 せっかく 扇動 総合 装丁 相当 それ そろう ただし …たち 例えば 頼もしい 度 …たび 多分 賜る ため 駄目 ちなみに 注 </p>	<p> 1年ごとに更新する 断りの手紙 この期に及んで 先に立つ, 先取り, 先んずる さきにお知らせした さしずめ計画どおりに実施する 物品をさばく 罪人を裁く さらに, … 更に検討することとする。 去る〇日 締切り。締切日 十分配慮する。 随分早く着いた 是非を論ずる, 是非お願いします 扇動する 部長に相当する, 相当難しい それぞれ, それゆえ, それら ただし, … 私たち, 子供たち 度重なる, 度々 このたび, …するたび 多分…であろう ために, …のため 駄目を押す </p>
---	---	--	--

<p>ちようど ちよっと ちんでん ついでに でき …出来 できる</p> <p>とおり</p> <p>とき</p> <p>ところ</p> <p>ない など にくい はかる</p> <p>ひとり ひょうき</p> <p>ふさわしい ページ ほか</p> <p>ほど</p> <p>ほとんど まさる また または まったく まれ みずから みたす みなす むなしい むやみ めざす めんどろ もうしあげる もし もしくは (接続詞) もの</p> <p>もらう</p>	<p>丁度 △一寸 ▲沈澱 △序でに</p> <p>出来る</p> <p>△処</p> <p>無い △…等 △…難い</p> <p>△△相応しい ▲頁 外 △他</p> <p>▲殆ど △優る 又</p> <p>▲稀, △稀</p> <p>△充たす ▲見做す △空しい, △虚しい ▲無闇, △無暗</p> <p>△若し</p> <p>▲貰う</p>	<p>ちようど ちよっと 沈殿 ついでに 出来 …出来 できる</p> <p>通り …とおり 時 …とき 所 …ところ ない など …にくい 図る 計る 測る 量る 謀る 諮る 一人 表記 標記 ふさわしい ページ ほか</p> <p>程 ほど …ほど ほとんど 勝る また 又は 全く</p> <p>自ら 満たす 見なす むなしい むやみ 目指す 面倒 申し上げる もし 若しくは 物 者 …もの もらう</p>	<p>ついでに仕事も頼む 出来心, 出来事, 出来上がる 上出来, 不出来 利用 (が) できる, できるだけ…</p> <p>銀座通り。 次のとおり。計画どおり。 時の記念日 事故のときは連絡する。 家を建てる所 現在のところ差し支えない。 欠点がない。行かない。</p> <p>実行しにくい, 言いにくい 合理化を図る 時間を計る 距離を測る 目方を量る 暗殺を謀る 審議会に諮る 一人の力。一人一人 表記の金額, 国語の表記 標記のことについて (件名のときに使う。)</p> <p>特別な場合を除くほか 殊の外 程遠い, 程なく, 身の程 先ほど, 後ほど, 今朝ほど 少ないほど良い</p> <p>山また山 (A若しくはB, 又) はC</p> <p>むやみに言い触らす</p> <p>ご面倒をお掛けします</p> <p>もしも (a 若しくは b) 又は c 物を大切に扱う 18歳未満の者 目安を示すものである。 …してもらう</p>
---	--	---	--

<p>やかましい やすい</p> <p>やっかい やむをえず やわらぐ ゆえ</p> <p>ゆえに (接続詞) よい</p> <p>ようだ</p> <p>よほど (副詞) よりどころ よる</p> <p>よろしく ら りっぱ るす れいにゆう れんが わが わたくし わかる わかれる</p> <p>わきまえる わく わけ</p> <p>わずか わずらう</p> <p>わびる わりあい わりに われ</p>	<p>▲喧しい △安い △…易い</p> <p>▲已むを得ず</p> <p>故に</p> <p>様だ</p> <p>▲余程 △拠所 因る, △依る, △拠る, 因る △宜しく, △宜敷 △…等</p> <p>▲煉瓦 ▲吾が</p> <p>△解る, 判る</p> <p>△弁える</p> <p>▲僅か</p> <p>▲詫びる</p> <p>▲吾</p>	<p>やかましい 安い …やすい</p> <p>厄介 やむを得ず 和らぐ 故 …ゆえ ゆえに 良い 善い … (て) よい ようだ</p> <p>よほど よりどころ よる</p> <p>よろしく …ら 立派 留守 戻入 れんが 我が 私 分かる 分かれる 別れる わきまえる 枠 訳 …わけ わずか 煩う 患う わびる 割合 割に 我</p>	<p>読みやすい</p> <p>気持ちが和らぐ 故あって, 故なく 一部の反対のゆえにはかどらない ゆえに, … 頭が良い, 良い成績 善い行い 連絡してよい …のようだ。 このような計画</p> <p>これによってよい</p> <p>よろしくお取りはからいください これら, 何ら, 我ら</p> <p>定額戻入</p> <p>我が国</p> <p>気持ちが分かる。 意見が分かれる 家族と別れて住む</p> <p>枠を定める 訳がある。 賛成するわけにはいかない。 わずかの差 人手を煩う 胸を患う</p> <p>週に1回の割合 割に容易である。 我々, 我ら</p>
--	---	---	--

